



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第296号

2020年7月9日発行

編集・発行：情報委員会

2019～20年度 テーマ

素敵に輝いて 素敵なクラブライフを！

第 296 回 例会

日 時：令和 2 年 6 月 11 日（木） 13:00～14:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：47 名 出席率 83.9%

（会員数 58 名 休会 2 名 欠席 9 名）

1. 開 会 齊藤例会委員長

第 296 回例会開催を告げ、配布資料の確認。

2. 会 長 挨拶 飯 田 会 長



皆様こんにちは、今年度の最後の例会となりました。

皆様には 2 月の例会でお目にかかったまま久しぶりにお会いできましたことを大変嬉しく思います。長い Stayhome

の期間、皆様におかれましては如何お過ごしでしたでしょうか。

昨年来続いている新型コロナウイルスの感染拡大により 2 月例会以降 3 月、4 月、5 月例会の中止、さらにクラブのメイン事業であります学習サロンも中止となり辛い思いをいたしました。

ここでやっとコロナ感染拡大の流行もわずかながら下方に向かっていることから緊急宣言も解除され、日常生活が僅かずつでも戻ってきているように感じます。第 2 波、第 3 波の心配はありますがコロナとの新しい自衛の生活を送りつつ、早期にワクチンと治療薬の開発ができる事を願っています。世界の人々が安心して普通の生活に戻れますようにと祈っております。

いま私の周りではノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生の研究物質イベルメクチンがコロ

ナの治療薬として効果があるのではないかと臨床試験が行われています。また治験の大手企業シミックホールディングではアビガン錠の臨床試験と製造を支援しています。さらに新型コロナウイルスの研究用抗体検査キットも販売を開始しました。改めて新型コロナウイルスに関連する医療関係の方々の献身的なご尽力に心からのエールを送りたいと思います。

これからのプロバスクラブの活動としましては、私たちにできる細心の注意を払いながら、どう連携を保ち、組織活動を展開していくかが大きな課題となります。「With・コロナ時代」を迎え、新年度の各委員会組織におかれましては、皆様それぞれが知恵と工夫により、この難局を乗り越え、頑張っていたきたいと思います。

最後に今年度の理事の皆様並びに会員の皆様のご支援ご協力に衷心より厚く感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

3. ハッピーコイン披露

田中副会長からハッピーコイン 20 件の披露があった。(5 ページに掲載)

4. バースデーカード贈呈

池田会員手作りのバースデーカードが 6 月生まれの会員に贈られました。



写真 左から一瀬、持田、塚本会員、(飯田会長) (敬称略)

5. 新会員の紹介

丸山 恭 会員

〈紹介者 杉山友一会員〉

新会員の丸山さんは2月に例会見学に来られて、その場で推薦手続きをさせて頂き、4月の理事会で承認されて、既に4月からの正会員でございます。

3ヶ月連続で例会無しということで6月例会の今日改めてご紹介ということになりました。入会式は休会中に会長と幹事、会員委員長、それに推薦者の高取・杉山が同席して済ませております。

さて、新会員の丸山さんは、高取家と親しいご縁の方で、高取会員のお宅に来られた折に私がお邪魔をして、そこでプロバスは面白いですよ、何より健康長寿の秘訣ですよ、と大演説をさせて頂きました。大変素晴らしい方をお迎えすることが出来ました。

丸山さんのお仕事は、各地の検察庁において捜査、公判等の検察業務を任務とされ、元奈良地方検察庁検事正でございます。退官後は公証役場の公証人として公務を務めておられました。私も実業の現役時代は売掛先の債権保全をするために公証役場によく通いましたが、公証人の権限は大変大きなものがあります。

これからは会員の皆さんとの法律相談は無料ですとってくれると思いますので、お付き合いのほどよろしくお願い申し上げます。続いて高取会員からもお話頂きます。

〈紹介者 高取和郎〉

私の家内が絵のお友達として丸山さんの奥様と交流があり、家もお近くと言う事で近しい仲でありました。丸山さんがお勤めを終えられたと言う事を聞きましたので、杉山さんにも相談してプロバスクラブへお誘いしたものであります。

丸山 恭会員ご挨拶



入会のいきさつはご紹介頂いたとおりであります。皆様に温かく迎えて頂いてありがとうございます。私は検事として東京地検を振り出しに全国の地検を廻ってまいりました。福島に赴任した時に八王子に住居を構えました。その後しばらくは単身赴任の形で過ごしてきましたが、ここ10年、やっと落ち着い

たところであります。

現在70歳を迎え、法律関係の仕事はお仕舞にして、弁護士にもなりませんでした。そんな折、今回温かいお誘いを頂いたところであります。

私の趣味はプロ野球観戦、大相撲観戦、それと旅行であります。今年はコロナの関係で全くダメですが、普段なら今頃は所沢の西武ライオンズの試合観戦や大相撲東京場所にはチケットが取れば必ず行っております。

この3カ月ほどは、高取さんや杉山さんにお会いするほかは静かに過ごしておりました。今日は久しぶりに世の中へ出てきた感じでこの会に出席しました。どうぞよろしくお願いいたします。

6. 次年度人事構成発表

田中信昭副会長



お手元に2020～2021年度の「理事分掌・委員会・会長委嘱人事」発令の一表と「委員会・プロジェクトメンバー構成表」をお配りしました。7月からの新年度の執行体制であります（下段の一表）。

以上のように役割分担をさせていただきました。よろしくお願い申し上げます。なお、現在の会員数は58名ですが、出来るだけ増員が図れるよう努めてまいりますので、御協力をお願い致します。

役員分掌(敬称略)

会長	田中 信昭
副会長	河合 和郎
幹事	持田 律蔵
副幹事	山口 三郎
例会委員会委員長	齊藤 万里子
副委員長	野口 浩平 井上 克
情報委員会委員長	内山 雅之
副委員長	永井 昌平 佐々木秀勝
会員委員会委員長	寺山 政秀
副委員長	岡本 宝蔵 深谷 正徳
研修委員会委員長	飯田富美子
副委員長	根本 照代 鈴木 均
地域奉仕委員会委員長	馬場 征彦
副委員長	武田洋一郎 鈴木はるみ

「宇宙の学校」プロジェクトリーダー 下山 邦夫

サブリーダー 下田 泰造

交流担当 一瀬 明

会計監査 岡部 洽 鈴木はるみ

会長委嘱 全日本プロバス協議会 立川富美代

7. 幹事報告

一瀬幹事



本日は新型コロナウイルス感染の収束が見通せない悪い状況下、会員の皆様には多数出席いただきまして誠にありがとうございます。

理事会としては3回連続の例会中止や生涯学習サロンの中止を受けて長いこと皆様とお会いする機会を逸しており、次期の田中体制につなぐためにも何とか開催する方策がないものかと検討を重ね、本日の開催に至りました。

そういう中で本日は明るいニュースが2つあります。一つ目は先ほど紹介のあった久しぶりの新入会員丸山様を迎えることができたこと。もう一つは昨年夏から入退院を繰り返し懸命な闘病にあたられていた有泉副幹事が復帰されたことであります。まことにめでたうございます。

一方ファウンダーの一人であり長いことプロバス活動にかかわってこられた大串会員が今月末をもって退会されることは寂しいニュースであります。また有田会員も今月末での退会を申し出ておられます。

また先月の臨時総会は皆様の出席を得ることは難しいとの判断から書面議決の形をとりました。会員の皆様のご協力で表決をいただき無事次期の「田中丸」の役員体制を承認いただきました。先ほど田中次期会長より各委員会への各会員の所属も発表があったところであり、7月からのスタートに向けて必要な諸準備に取りかかることとなります。

一方、今期の「飯田年度」は今年に入ってから諸行事の中止という後ろ向きの仕事に追われてまいりました。諸般の事情とは言え誠に残念な結果となり、今月末をもって任期を終えることとなります。

年度を締めくくる打ち上げの意味もある懇親会についても、どういう形でリスクを抑えてやっつけたいか検討してまいりましたが、例会とは切り離して

6月25日(木)に日本閣で12時30分から開催することにいたしました。皆様からの会費の徴収は致しません。あまり盛大にはできませんが一年を振り返り、また来期につなげる機会にしたいと考えております。是非皆様のご参加をお待ちしております。

8. 委員会活動報告

(1) 例会委員会

齊藤委員長

何もわからないまま、務めて参りました。今日の例会はこのような形式で行いました。今後は新しい例会の在り方の検討も必要になって来ると思います。

皆様の御協力に感謝いたします。一年間ありがとうございました。



(2) 情報委員会

河合委員長

プロバスだより 295号をお手元にお届けしました。ここ3カ月は例会が開催されませんので4ページの発行となっています。この間、寄稿文を沢山寄せて頂き有難うございました。月平均2.5件の寄稿を頂きました。

5月のホームページへのアクセス件数は181件でした。普段の月平均が300件前後ですから、コロナ自粛による社会活動の低下が表れているように思われます。

(3) 会員委員会

岡本副委員長

休会中の委員長から「皆様にご迷惑をお掛けして申し訳ありません。一日も早く出席できるように努力したい」旨の伝言がありました。

会員の増強については努力してきましたが叶いませんでした。今回丸山会員に入ってもらって本当にうれしく思います。

新年度用の会員名簿を調整中です。各会員のご確認をよろしくお願ひします。

(4) 研修委員会

なし



(5) 地域奉仕委員会

武田委員長



生涯学習サロンについては計画・準備にお力添えを頂きました。残念ながら中止となりましたが、新年度へ向けての御協力を改めてお願いいたします。一年間ありがとうございました。

(6) 交流担当

田中担当理事

各地域のプロバスクラブは活動を休止しているところが多い。そうした中で情報交換としてプロバスだよりを 15 のクラブと交換しているがこの事業は継続しています。近隣の多摩・日野のクラブは、活動は一年間延期とも聞いています。そうした中で本日の例会開催は大変うれしい事です。

それから全日本プロバス協議会から次年度理事への就任要請があり、すでに理事会では承認されていますが、会長と全日の理事の掛け持ちになる事をご了承下さい。

(7) 宇宙の学校

下山PJリーダー



B5 版のペーパーを配付してある。これはスクリーングが全面ストップしている中でスリーポンドの宇宙の学校の在宅学習のおすすめ版。既に 6 月に市内の小学校に配布。是非、家庭にある身近なものを材料に、各家庭での活動が進められることを願っている。

9. 同好会活動報告

囲碁同好会 6 月開催はコロナの為無理だが 7 月には第 1 金・第 3 金に実施する予定。

俳句同好会 同好会メンバーの自選句集第 7 号を発行した。一年前に亡くなられた渋谷文雄句友への追悼の意を込めて特集号として発行した。

10. その他

クラブ創立 25 周年記念事業について

準備委員会委員長 杉山 友一

創立 25 周年事業については、4 月 9 日発行のプロバスだより 293 号に事業の趣旨、準備の経過報告を致しましたが、今日お手許にお配りしたご案内チラシ

シがその完成版でございます。

3 月 30 日の準備委員会の段階で、ご覧の通り準備は 9 分 9 厘完了していたということでございます。しかながら、その後、皆様ご承知のように 4 月以降、新型コロナ事情が一変致し



まして、現下の情勢下では第 2 波、第 3 波の脅威が予想される中で、10 月 3 日にいちょうホールの大ホールで長時間音楽イベントを行うことは、もし感染者が一人でもいた場合にはクラスターの発生が懸念される等々、諸般の事情を検討した結果、この催しは開催不可との結論に至りました。お配りしたチラシは既に無効となり、まさに断腸の思いであります。

さて、そこです。来月 7 月からは田中会長新年度に入りますが、今までの準備委員会組織を「クラブ創立 25 周年記念事業委員会」に衣替えします。記念事業の目標の「次代を育てる はばたけ未来！！」の看板は決して下ろさずに進めて参ります。

事業活動の具体的な内容や手順はコロナ情勢を睨みながら逐次決定してまいります。会員諸兄におかれましては、どうか諸事情ご賢察のうえ、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

11. プロバス賛歌斉唱は中止

10. 閉会

田中副会長

今日、こうして皆様と久方ぶりにお会いできましたことは素晴らしい事であり、喜びを感じた次第です。長い間の自宅での自粛生活には、正直うんざりという感じです。それだけに皆様の元気なご様子はとてもうれしいことです。

ご提案申し上げた来年度の執行体制につきましてはご承認ありがとうございました。今年度の執行体制におきましてもやりたい計画が沢山ありましたが、止むを得ない事情により先延ばしになってしまいました。残念なことだったと思います。

本日はコロナ対応として新しい形の例会でしたが、今後も様々な工夫が必要かと思えます。まだまだ不安定な状況の中、皆様にはご自身の健康に十分気を付けられ、来月また元気にお目にかかりましょう。本日はお疲れ様でした。

ハッピーコイン

- ◆新型コロナウイルスにうまく対応し、新しい生活を築いていきましょう。 吉田 信夫
- ◆久しぶりに会員皆様と会えてうれしいです。 野口 浩平
- ◆今年度最期の例会、いろいろありました1年でしたが会員みなさまの御協力、御支援に厚く御礼申し上げます。心より感謝申し上げます。 飯田富美子
- ◆次年度のみなさまのご活躍を期待しています。 飯田富美子
- ◆コロナの影響で色々な事が中止になりました。私の長女の三男坊が今年東大・理工に合格しました。本人の努力も第一ですが、私達も非常に喜んでいます。ハッピー!! ハッピー!! 濱野 幸雄
- ◆一年間お世話になりました。研修委員会 山口 三郎
- ◆句集「幻境のうた」を発刊しました。これで生きた証が一つ残せました。お手元にお届けしましたので御笑覧下さい。 河合 和郎
- ◆2月開催のバスト会長会の剰余金をやっどハッピーコインへ納めさせていただきます。わずか357円ですが。 馬場 征彦
- ◆暴風の中、飯田丸が無事目的港に安着したことを祝して。 馬場 征彦
- ◆昨年8月以来入退院の繰り返しでしたが、お陰様で例会に出席できるようになりました。ハッピー・ハッピーです。 有泉 裕子
- ◆久しぶりに会うPC会員の元気な姿を見て安心。今の根性魂をもってコロナウイルスをぶっ飛ばせ。 荻島 靖久
- ◆久方ぶりの例会。ともかくめでたい。下山 邦夫
- ◆コロナ騒ぎの中、飯田会長執行部のご苦勞に感謝して。 杉山 友一
- ◆丸山さんの入会を祝して!! 杉山 友一
- ◆緊急事態宣言の解除で、プロバス仲間のゴルフ会に参加しました。ニアピン賞4ホールの内3ヶ、小玉スイカ2個、砂丘メロン1個を頂きました。スイカとメロンの甘さに感謝のハッピーコインです。 杉山 友一

- ◆飯田会長はじめ理事の皆様、一年間ご苦勞様でした。コロナウイルスに振り廻されて大変な半年だった事と思います。コロナはまだまだ続くのでうまく付き合うしかありませんが、世界中が苦しんでいますから大変なウイルスです。みんなで気を付けましょう。 立川富美代
- ◆6月3日ついに後期高齢者の仲間入りとなりました。これまで手術も別段することもなく健康でこられたことに感謝!これからは外出自粛で覚えた毎日のウォーキング6,000歩を日課として、健康づくりを忘れないようにしていきたいと思います。今後とも宜しくお祈りします。 持田 律蔵
- ◆飯田年度最後の例会になりました。それも3回連続中止の後を受けて。たくさんの会員の皆さんの出席を得てハッピーです。 一瀬 明
- ◆期末恒例の懇親会は例会と切り離して6月25日に日本閣で開催する予定です。コロナは安心できる状況ではありませんが、せめて楽しい一時を!! 一瀬 明
- ◆コロナ騒ぎの小康状態の中、久しぶりの例会が開かれ、皆さんにお会いすることができた事に感謝。懐かしい皆さんの笑顔に接してハッピー! 田中 信昭

年度末懇親会

日本閣で懇親会を開催

年度末懇親会は6月25日(木)に例会日とは切り離して、ゆったりとした配席が確保できる日本閣において開催された。以下、当日の状況について、写真を中心に報告する。

懇親会は野口例会副委員長の司会進行で進められた。

冒頭、飯田会長から1年間の会の活動に対する謝辞を述べられた。しかし、年度後半に発生したコロナ禍により、3か月に及ぶ例会の中止やほぼ準備の整った生涯学習サロン事業の中止など、予定通り事業が展開できなかった無念さを強くにじませた挨拶であった。



乾杯の杯を上げる飯田会長



懇親会はちょっと贅沢なコース料理に一同舌鼓。しばし楽しい時間が流れた。会食に引き続き、立川会員の進行によりピアノ演奏が披露された。演奏者はプロバス事業ではお馴染みの畑野かん奈さん。さらに、これまたお馴染みの田中三佐代さんの特別参加もあり、楽しい一時を過ごすことができた。



かん奈さんの演奏した曲目は、現在NHKの朝ドラで放送中のエールの主人公、古閑裕而作品の数々。特に最後に演奏された郷愁を誘う「鐘の鳴る丘」は、全員で歌唱し大いに盛り上がった。

田中三佐代さんも飛び入り出演で朝ドラ・エールの中で柴咲コウが歌う「私のいとしいお父さん」(ベルディ作曲・オペラ“ジャンスキッキ”より)を歌われ、一同楽し歌に堪能した。



会場風景



委員会活動報告

6月11日に開催された例会では実施できなかった「委員会活動報告」が順次行われた。各委員会のメンバーが壇上の整列、一年間の活動の労をねぎらう拍手が送られた。なお、例会委員会から会長の一年間の労をねぎらい花束が贈呈された。

最後に田中副会長から年度を締めくくる謝辞が述べられ、飯田年度の事業は全て終了した。

各委員会スタッフ挨拶

・例会委員会



・情報委員会



・会員委員会



・ 研修委員会



・ 地域奉仕委員会



・ 宇宙の学校



・ 本部役員



我ら昭和世代 (2)

杉山 友一

本紙6月号の前稿では、経済社会の視点から、昭和、平成を生きて令和へ突入した我ら昭和世代を見つめ直したが、今回は大衆音楽の視点から、ネット

情報の手も少々借りながら振り返ってみたいと思う。

子どもの頃から耳にした言葉に「歌は世につれ世は歌につれ」とあるが、終戦直後の混乱期に国民の気分を高揚させるきっかけとなった曲が二つある。戦後日本のヒット曲第一号となった並木路子の「リンゴの唄」であり、続いて、笠木シズ子の「東京ブギウキ」である。この2曲は年配者なら誰でもが何となく口ずさんだ懐かしい記憶があるだろう。そして終戦翌年の1月には早くもNHKラジオの「のど自慢」がスタートしている。素人が歌を競うこの番組はその後国民的娯楽として営々として成長を続け今日なお人気番組の地位を保っていることは皆さんご承知の通りだ。

歴史的にはこの音楽番組を介して島倉千代子（デビュー曲は「この世の花」）、北島三郎（最初のヒット曲が「なみだ船」）、都はるみ（デビューの年の2曲目「アンコ椿は恋の花」がミリオンセラー）などを始めとして演歌のスターたちが続々と生まれるのだが、何といても特筆すべきは、この「のど自慢」がきっかけで、素人のこどもの歌手が一躍大スターにのし上がったのが美空ひばりであり、この人なしに日本の歌謡史は語れないということになる。昭和25年にシルクハットの燕尾服姿で歌う「悲しき口笛（松竹）」が大ヒットするが（当時12歳）、この映像は昭和世代の誰の目にも焼き付いている筈だ。美空ひばりは平成元年に52歳の若さでこの世を去ったが、自他ともに認める昭和歌謡界の女王である。彼女の最後のシングルは名曲「川の流れのように」となったが、ひばり演歌の一生は奇しくも戦後昭和とまさしく時を一にしているのだ。

さて、ときに、昭和を一世風靡した演歌の特徴って何だろうか。演歌は日本の経済社会の発展にテンポを合わせるように時を刻んで来た摩訶不思議な音楽ジャンルで、明治維新後に日本にやってきた西洋音楽の「ドレミファソラシ」の7音（7音の間にそれぞれ半音を入ると12音）から「ファ」と「シ」を抜いて5音に単純化した造りが基本になっている。つまりは日本人の得意技で洋物を日本化、土着化させたということで、この5音階に、原則5・7の韻を踏んだ如何にも情緒的な日本的な歌詞が加わることで、我ら昭和世代の心は大いに揺さぶられて来たと言うことだ。そして、昭和41年にはビートルズが日

本に登場して大衆音楽に大きな影響を与え、グループサウンズが生まれて一方のファン獲得に成功するのだが、演歌の大御所北島三郎さんは、一貫して演歌は日本の伝統、日本人の心の故郷ですと主張して歌い続けてきた。しかしそれも、やがて松任谷由実や桑田佳祐が表現自由度の高い散文の歌詞を伴って、洋楽並なみの複雑な音階を駆使して時代を先取りしていくと、演歌は徐々に衰えをみせ始める。そして、時は令和年代の今や演歌は「絶滅危惧種」とさえ評されるところまでできてしまった。今NHKの「のど自慢」や民放の「カラオケ名人戦」など見ていると演歌を選択する歌い手はごくわずかだ。昨年一年間のNHKののど自慢で歌われたベスト20曲では、石川さゆりの「天城越え」が唯一、漸く17位にランクされていた。いよいよ昭和演歌は遠くなり之感が否めない。世は歌にはつられないかもしれないが、間違いなく歌は世につられていくのである。4拍子の宴会手拍子にしか馴染めない昭和世代にとっては、華やかな年末番組の紅白歌合戦ももはや退屈で、既に兎角この世は住みにくいのである。

「余談として」、新型コロナウイルス問題が生じて「不要不急」の外出を諫めるキャンペーンが4月、5月と国中で繰り返された。老生も、来る日も来る日もステイホームをしっかりと継続して行政指導に大きく貢献した積りでいた。つまりステイホームすることで現役社会とつながって、なんとなく生き生きしていたのです。しかし、そんな折ふと気が付いたことに、八十路半ばを迎えた者にもはや課された公も実業もなく、勝手に余生を楽しんでいるばかりだから、思えば我が人生そのものがもう「不要不急」だ。いくら現役時代の自慢をしてみたところで意味がない。文字通りお陰さま故の悠々自適、生かして貰っている存在ということだ。だとすれば、精々謙虚に己の立場を自覚して世間様に感謝の気持ちを忘れずに向後の日々を送らねばなるまいと思う次第。さもないと「不要不急」を「不用不久」と言い換えられたら事はより面倒になるだろう。小林旭の一曲に「遠き昭和に・・・」がある。思い出だけが心を巡る、遠き昭和のまぶしい時代、遠き昭和の灯りが恋し、と歌っている。しみじみと、昭和は遠くなり、にけり、くれぐれもご用心、ご用心と言ひ聞かせる今日この頃なのである。

俳句同好会便り

私の一句〈六月の句会から〉 河合和郎

今月から通常の句会を開催。間宮会員が投句で初参加。句会のメンバーは10人となった。

葉隠れに日ごと膨らむ青梅かな 飯田富美子

葉隠れに青く澄んだ実梅を発見すると何か心弾むもの。今年もいい梅酒づくりへの期待が膨らむ。

青葉闇砂利音こもる社かな 馬場 征彦

静寂な社の様子が描けた。青葉闇と玉砂利を踏む足音との相乗効果が効いている。句会の最高点句。

待ちわびし初夏の入学笑みこぼる 野口 浩平

コロナ禍で4月の入学が出来なかった新入生。「待ちわびし」と「笑みこぼる」がすべてを語る。

コロナ禍や碁敵は来ず夏来たる 東山 榮

いつも碁盤を囲む好敵手の来訪が途絶えて早や三月。季節はいつの間にか夏を迎えてしまった。

夏霧の一気に晴れて岳青し 矢島 一雄

岳人の一句。霧に閉ざされていた山容が一気に眼前に迫る。夏山登山の醍醐味。岳青しに臨場感が。

久しかり庭の鈴蘭仄あかり 池田ときえ

もう何年も見かけなかったのに、今年は庭に鈴蘭の花がほんのりと咲いている。再会の喜びを一句に。

籐寝椅子葉ずれの音も夢うつつ 田中 信昭

夏の午後、籐椅子に身を任せてのうたた寝。葉擦れのざわめきが夢とも現とも。至福の一時が……。

ステイホーム緑陰に満つ父子の声 下山 邦夫

コロナ禍も悪い事ばかりではない。親子で過ごせる時間がこんなに持てるなんて。緑蔭から声が響く。

雨上がり万緑映ゆる多摩の丘 間宮 敏明

雨が上がる。多摩丘陵の燃えるような万緑が陽光に照り輝く。多摩の恵まれた夏の美景が描けた。

静もりて月は植田を渡りゆく 河合 和郎

深々と水の張られた植田。賑わっていた田植作業も終り、月の照らしゆく夜の田園風景を一句に。

編集後記：296号をお届けする。コロナ騒動で日本中が混乱する中、プロバスの活動にも大きな影響が出た。今年度の予定した主要事業はほぼ中止。しかし、これしきの事にめげずに新年度に向けて「新たな時代」への挑戦を決意しつつ、本年度の最終版としたい。 情報委員会

